

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は、3月17-18日に開いたFOMC(連邦公開市場委員会)において、フェデラルファンド(FF)金利の誘導目標を前回の1月に続き3.50-3.75%で据え置くことを決定しました。なお、今回の採決では、マイラン理事が0.25ptの利下げを主張し、反対票を投じました(賛成11名、反対1名)。

FOMC後に発表された声明文では、前回からの変更は一部にとどまり、中東情勢の緊迫化を受けて「中東情勢の米国経済への含意は不確実である」との一文が追加されました。

今回発表された経済見通し(SEP)では、成長率の見通しが小幅に上方修正された一方で、失業率の見通しは2027年のみ4.2%から4.3%に修正されました。インフレ率に関しては、2026年の見通しのみ中東情勢の悪化による原油高の影響を考慮したと見られる上方修正がなされたものの、2027年以降の見通しについては大きな変化は見られませんでした。

ドットチャート(政策金利見通し)の中央値は、年内1回、更に来年1回の利下げ見通しが維持されました。

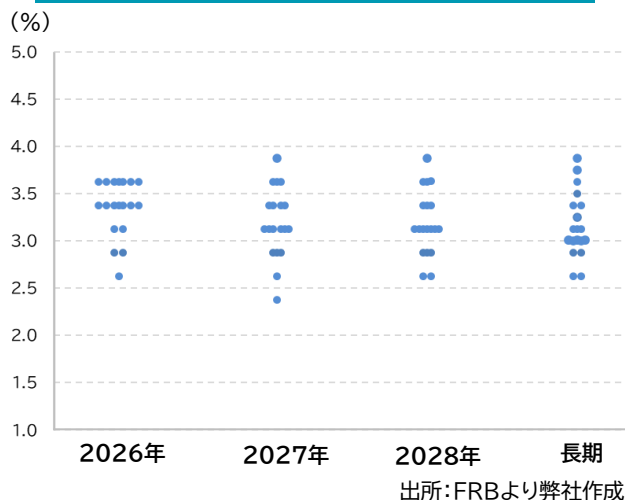
パウエル議長はFOMC後の記者会見で、「インフレに関して進展が見られなければ、利下げはしない」と、利下げに対して慎重なスタンスを示しました。エネルギー価格の高騰に関しては、「インフレ率を押し上げる効果は一時的であり、ただちにFF金利の経路に影響を与える要因ではない」との見解を示したうえで、「中東情勢の影響を判断するには時期尚早」と述べ、状況を見極めていくスタンスを強調しました。

図表1 FOMC参加者の経済見通し
(中央値ベース)

	2026年	2027年	2028年	長期見通し
GDP成長率	2.4%	2.3%	2.1%	2.0%
(前回12月)	2.3%	2.0%	1.9%	1.8%
失業率	4.4%	4.3%	4.2%	4.2%
(前回12月)	4.4%	4.2%	4.2%	4.2%
PCEデフレーター	2.7%	2.2%	2.0%	2.0%
(前回12月)	2.4%	2.1%	2.0%	2.0%
コアPCEデフレーター	2.7%	2.2%	2.0%	-
(前回12月)	2.5%	2.1%	2.0%	-
FFレート(中央値)	3.4%	3.1%	3.1%	3.1%
(前回12月)	3.4%	3.1%	3.1%	3.0%

出所:FRB

図表2 FOMC参加者のFF金利予測
(ドットチャート)

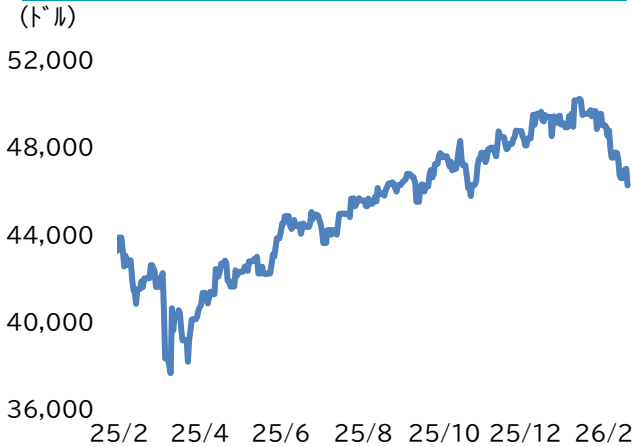


Daily Report(号外)

市場の反応(米国市場)

今回のFOMCでは年内1回、来年1回の利下げ見通しが維持されたものの、パウエル議長が「政策金利を引締め気味の水準に維持することが重要」と述べたことで市場の利下げ期待が後退したことや、原油価格の上昇の影響を受けて下落し、NYダウ平均は前日比▲768.11ドル安の46,225.15ドルで終わりました。米国10年国債利回りは、パウエル議長が「利下げは不確実なインフレ動向に左右される」との見解を示したことからインフレ再燃懸念が意識され、前日比+0.07%の4.27%まで上昇して終わりました。為替市場では、FF金利が据え置かれたことでドル買いの需要が高まり、一時は2024年7月以来となる1ドル=159円90銭まで上昇しました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



評価及び今後の見通し

今回示された内容は概ね予想通りで、大きなサプライズはありませんでした。2月に発表された軟調な雇用統計の結果と、エネルギー価格上昇によるインフレ再燃リスクの台頭を受けて、雇用の最大化と物価安定が責務であるFRBの舵取りへの注目が高まっていたが、パウエル議長は「インフレよりも雇用のリスクが大きいとは言えない」と会見で述べるなど、インフレをより注視するスタンスを示したことから、ややタカ派寄りな内容であったと見ています。

SEPでは、エネルギー価格上昇の影響は短期的であり、来年以降にインフレ率は概ね落ち着くとの予想が示されたものの、利下げは中東情勢次第となる見方が強まっており、当面の間は中東情勢に関する報道が市場に影響を与える展開を予想しています。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
2026/3/18-19	日銀金融政策決定会合
2026/3/18-19	ECB理事会
2026/4/28-29	FOMC

出所: Bloomberg